

<金標準先物、FOMC、ECB 理事会を受け戻り売り基調へ・・・>



(出所：オアシス)

消費者物価指数（CPI）は、前年比で先月の 7.7%が 7.1%まで低下し市場ではインフレに対する楽観的な見方が強まりを見せたが、FOMC で 0.5%の利上げを実施しパウエル FRB 議長は会見で「物価安定を回復させるには、景気抑制的な政策スタンスをしばらく維持する必要があるようだ」と述べ「なお幾分か道のりは残っている」と発言している。また ECB 理事会でも 0.5%の利上げを実施し、ラガルド ECB 総裁はユーロ開始以来最悪のインフレの沈静化に向けて同様の利上げがしばらく続く と投資家に警告し、「まだ先へ進まなければならない。これは長期戦だ」と述べている。そのため市場では CPI から一転してネガティブな反応を示しダウ平均は 2000 ドルの下落、NY 金も 49 ドル安とインフレ抑制の景気後退を意識した逃避の動きを強めている。

特に今週は日銀金融政策決定会合を控えており、金融政策における緩和策継続の変更はないと思えるが、黒田日銀総裁の任期終了が 4 月 8 日に迫り、黒田日銀総裁の下で会合も今回を含めて残り 3 回であり、為替市場における円安効果も期待できないと予想される。

そのため円建て金標準先物は、金利高と円高の思惑に押されて再度 7700 円に向けた下値追いに注意した方が良いと思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD では、MACD が切り上げながら、シグナルも切り上げているが、乖離が縮小している。RCI は短期が下げながら、長期は上昇しており、弱気のクロスの発生が予想され、7800 円以上の戻り売り基調に思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 3,075,000 円(2022 年 12 月 19 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 37,620 円(2022 年 12 月 19 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>